

2023年度
自己点検評価報告書

学校法人 日産学園
日産栃木自動車大学校

目 次

基準1 教育理念・目的・育成人材像等

【1】 理念・目的・育成人材像

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

【2】 学校の特色

1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界ニーズに適合しているか

【3】 学校の将来構想

1-3 社会のニーズを踏まえた将来構想を描いているか

基準2 学校運営

【1】 運営方針・事業計画

2-1 理念等を達成するための運営方針と事業計画を定めているか

【2】 運営組織

2-2 設置法人は、組織運営を適切に行っているか

【3】 人事・給与制度

2-3 人事・給与に関する制度を整備しているか

基準3 教育活動

【1】 目標の設定

3-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか

【2】 教育方法・評価等

3-2 教育目的、目標に沿った教育課程を編成しているか

【3】 成績評価・単位認定等

3-3 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか

【4】 資格・免許の取得の指導体制

3-4 目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置付けているか

【5】 教員・教員組織

3-5 資格・要件を備えた教員を確保しているか

基準4 学修成果

【1】 就職率

4-1 就職率の向上が図られているか

【2】 資格・免許の取得率

4-2 資格・免許取得率の向上が図られているか

【3】 卒業生の社会的評価

4-3 卒業生の社会的評価を把握しているか

【4】 資格・免許の取得の指導体制

3-4 目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置付けているか

基準5 学生支援

【1】 就職等進路

5-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか

【2】 中途退学への対応

5-2 退学率の低減が図られているか

【3】 学生相談

5-3 学生相談に対する体制は整備されているか

【4】 学生生活

5-4 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか

【5】 保護者との連携

5-5 保護者との連携体制を構築しているか

【6】 卒業生・社会人

5-6 卒業生への支援体制を構築しているか

基準6 教育環境

【1】 施設・設備等

6-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか

【2】 学外実習等

6-2 学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか

【3】 防災・安全管理

6-3 防災に対する組織体制はを整備し適切に運用しているか

基準7 学生の募集と受入

【1】 学生募集活動

7-1 学生募集を適正、かつ効果的に行っているか

【2】 入学選考

7-2 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか

【3】 学納金

7-3 経費内容に対応し、学納金を策定しているか

基準8 財務

【1】 財務基盤

8-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか

【2】 予算・収支計画

8-2 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか

【3】 監査

8-3 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を行っているか

【4】 財務情報の公開

8-4 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか

基準9 法令等の遵守

【1】 関係法令、設置基準等の遵守

9-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っているか

【2】 職業実践専門課程認定要件

9-2 職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っているか

【3】 個人情報保護

9-3 学校が保有する個人情報に関する対策を実施しているか

【4】 学生評価

9-4 自己点検評価、学校関係者評価を適切に行っているか

【5】 教育情報の公開

9-5 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか

基準10 社会貢献・地域貢献

【1】 社会貢献・地域貢献

10-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか

【2】 ボランティア活動

10-2 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか

基準11 国際交流

【1】 国際交流

11-1 国際交流活動を行っているか。

◆栃木校 自己点検評価 報告書 (2023年度活動評価)

日産栃木自動車大学校

※評価凡例 :4. 適切 3. ほぼ適切 2. やや不適切 1. 不適切 NA 当てはまらない

基準1 教育理念・目的・育成人材像等

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか。	4	<ul style="list-style-type: none"> 理念・目的・育成人材像は、当校の「教育理念」及び「教育方針」の形で、明確に定められ、教育課程の編成に、概ね理念、方針を具体化されている この教育理念・教育方針に則り、中期・年度の活動方針に「自主性、主体性」を掲げ、活動を継続している。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生の多様化に対応する教育内容の改善が必要。 →23年度の教育課程の編成方針に織り込、24年度はそれを更にブラッシュアップしていく ※具体的には、3-1 教育課程の編成方針参照。 	a. ホームページ (学長メッセージ、教育理念)
1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界ニーズに適合しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> 自動車業界は、100年に一度の技術革新を迎えており、「特定整備」の法制化に代表されるように、高度整備技術の保有者を強く求めている。 「時代をリードする技術力」と教育方針にも謳い、自動車メーカーの整備士養成部門とも連携する中で、必要な技術養成のカリキュラムは盛り込んでいる。 具体的には、自動車整備科、一級自動車工学科、夫々のレベルに応じて、「特定整備」に代表されるような新技術対応の授業を、22年度から実施している。また日産自動車からの支援を得ての先進安全技術とEVの授業も実施した 	<ul style="list-style-type: none"> 新技術教育では、学生のレベルのばらつきが課題の一つ。 →下位学生のレベルに応じた新技術教育も織り込みつつ、日産自動車(NBC)の協力も得て、新技術の授業を取り入れていく(工学科3年生では日産自動車講師による特別授業を実施) 	a. ホームページ (学長メッセージ、教育理念) b. 販社アンケート c. 教育編成委員会議事録
1-3 社会のニーズを踏まえた将来構想を描いているか。	4	<p>整備士需要は高く、日本人の入学希望者は減少の一途の中、より多くの多様な学生を受け入れ、一定のレベルにまで育成していかななくてはならない環境下にある。</p> <p>⇒①日本人の多様化 ICT機器を活用して低位学生を含めた個別最適なフォローを充実させた。昨今、学習障害傾向のある学生も入学しているが、教員がその対応を学ぶ研修を実施し、外部機関との連携も試みながら学生を支えるようにしている。</p> <p>⇒②留学生の増員</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本人の不足に応える留学生の受け入れを留学生3年課程(国際自動車整備科=国際科)と整備科にて行っている。 FY23は国際科で週2コマを日本語学校の講師による自動車整備を学ぶ上で必要な日本語の習得にあてた結果、日本語検定2級合格者が4名。 今春から国際科2年生となり、整備科1年生(日本人)と一緒に授業を受けているが日本語の上達が評価されている。 	<p>24年度177名(内約90名が留学生)と入学増員は達成できてきたが、2年間、3年間での育成には日本語を中心とした課題が大きいのかかかっている。</p> <p>今後も日本語学校と連携して国際科1年生の日本語力強化に取り組むと共に、教職員向けの日本語指導研修も実施予定。</p>	a. 中期計画(2024~2026年) b. FY23活動実績 c. FY24活動計画

基準2 学校運営

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-1 理念等を達成するための運営方針と事業計画を定めているか。	3	・理念、教育方針のもとに、学ね、及び、栃木校の中期、年度の計画・方針を定め、教職員と共有しながら進捗展開している。	中期的な計画については、まだ、具体化しきれておらず、今後、関係者との論議を経て、固めていく。	※以下は、1-3の資料と同じ a. 中期計画(2024～2026年) b. FY23活動実績 c. FY24活動計画

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-2 設置法人は、組織運営を適切に行っているか。	3	学校法人及び日産・自動車大学校(※1)としては、【決定基準】がその意思決定の権限基準を決めており、学校としては、組織図が各権限基準を示している。また、日産学園3校は毎年度、内部監査及び、日産自動車監査室の監査を受けて、組織運営の改善を行っている。	FY23の各監査でも、未だ、細部の指摘を受けており、改善に努めていく。	a.組織図(日産自動車大学校) b.組織図(日産栃木自動車大学校) c.決定基準(日産自動車大学校) d.決定基準(日産学園) e.経理内部監査結果 f.日産自動車監査結果

※日産・自動車大学校～日産学園3校・日産横浜自動車大学校(日産自動車立)・日産愛媛自動車大学校(愛自学園)の5校が教育・募集・就職などの協業の為に組んだアライアンスの名称。

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
2-3 人事・給与に関する制度を整備しているか。	4	日産自動車の制度改定に倣って、日産校支援部主導により日産校全体で評価制度の改訂を行った。これは数値至上主義による教職員のモチベーションダウンなど弊害を防ぐためである。また職制の評価者研修も併せて実施している。	今後、運用しながら必要に応じて修正し、より教職員のモチベーションが高くなる評価制度としたい。	a.就業規則 b.新評価制度説明資料

基準3 教育活動

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか。	3	理念、教育方針に沿って教育課程の編成・実施方針を策定することを基本としている。中期計画の中で、重点方針「自主性・主体性の育成」を掲げ、整理した3つのポリシー(ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)の実現に向けた活動を展開してきた。	自主性向上のために、ルーブリック評価を採用してきたが、成績低位学生育成に課題が残る。対策としてFY24から態度点制度(授業態度の悪さをみえるかし、指導に繋げる)を導入した。	FY23年度教育部活動計画振返り

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-2 教育目的、目標に沿った教育課程を編成しているか。	3	<p>[自動車整備科・一級自動車工学科]学科、実習共に、学生が修業年限で到達レベルに達する為に理解しやすいよう、教える順番を綿密に検討し、体系化されたカリキュラムを授業計画書にまとめ保有している。</p> <p>[自動車整備・スポーツメカニクス科] スポーツメカニクス科3学年目においては、金属加工やエアブラシ等新しい取組を行い、また研究授業では個々人の要望を加味した題材の研究を行って、レースの合間を埋めるようにし整備技能につながる技能を体験するなど充実したものできている。</p> <p>[国際自動車整備科] 日本語学校の教員を招き、基礎自動車工学の内容の一部を担当してもらい、工学授業の中に日本語理解のエッセンスも入れ、日本語力向上を図った。</p>	<p>[自動車整備科・一級自動車工学科] ICT教材の作成工数が課題となっている。 また、Classroomで使用してるクラスを共有化し、次年度に使用できる様に対策をしている。</p> <p>[自動車整備・スポーツメカニクス科] 特になし</p> <p>[国際自動車整備科] クラス内の学力レベルに大きな開きがあり、どの層に合わせて授業を行うかが課題。担当教員を増やし、層別授業として各レベルに合わせた進行具合に調整することで対応。</p>	<p>a.学びの樹 b.授業計画書 c.3つのポリシー d.23年度教育部活動計画書</p>
3-3 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか。	3	<p>成績評価・認定、その先の進級、卒業の基準も学則、学ナビで明確にし、それに沿って運用している。</p>	特になし	<p>a. 学則 b. 学ナビ c. 授業計画書</p>
3-4 目標とする資格・免許は教育課程上で明確に位置付けているか。	4	<p>すべての法定教科は目標とする資格(国家一級、国家二級)に繋がるものであり、年間カリキュラムに織り込んで明確に定められている。直前の国家資格対策もカリキュラムに織り込んでいる。</p> <p>各学年の中で、上記カリキュラムで履修した内容の理解度確認を定期的に統一試験として実施。併せて直前の国家試験対策でサポートしている。</p> <p>又、技能としては日産自動車の社内資格基準に従って、カリキュラムを構成することで、技能レベルの目標を明確化している。</p>	特になし	<p>a.各資格取得計画 b.統一試験 c.23年度教育部活動計画</p>

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
3-5 資格・要件を備えた教員を確保しているか。	3	<p>必要な資格、一定の専門性を有した教員を常勤で確保。専門性や、教授力向上の為の研修にも力を入れている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在の教員の資格保有率は、以下の通り。 国家二級:100%、国家一級:75%、日産整備2級:64% 日産整備1級:17%(5名) 新技術や業界の新しい仕組み等を学ぶ研修は、日産自動車主催の各種研修に定期的に派遣している。また、インストラクション、コーチングの研修、および専修学校協会の行う、専修学校教員研修会に参加し、教員認定証を取得する。また、学生指導面の育成として外部講師を招いた研修を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の国家一級資格取得は、受験者4名中1名合格(筆記)。十分な勉強時間が取れていない事が課題。24年度は4年生と同等の問題を教員にも配布、実施する事で合格を目指す。 コロナ前の受講数まで戻っていない。特に日産関連の研修に積極的に参加していく予定。 	教員資格、研修受講一覧

基準4 学修成果

点検小項目	評価	ア 現状認識・評価等	ウ 課題とその解決方向	参考資料
4-1 就職率の向上が図られているか	4	<p>就職希望者全員に対して、就職を斡旋し、24年4月就職希望者97名を含め、毎年 就職率100%の実績を上げている。増加してきた留学生の就職も堅調。</p> <p>就職対象者全員の受験状況ならびに内定までの状況をリアルタイムに把握しつつ100%を目指す体制を敷いている。(25年4月就職希望98名の内定率は24年4月末日時点87.8%)</p> <p>学生がスムーズな就職活動を行えるように企業との繋がりを強化した早期の取組みに注力して、内定時期は早まった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 従来から、就職活動に苦慮する一部の学生はおり、個々の事情に合わせて、フォローを行い最後まで面倒を見ていく。 就職授業の内製化を図り、日常の就職指導とのつながりを強化する。 25年4月就職対象者が160名程度(+60名)になり、留学生も50名超になる。留学生の就職指導を強化していくと共に斡旋先は地元ばかりではなく、開拓をする必要がある。 	a.24年4月入社就職進捗表

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
4-2 資格・免許取得率の向上が図られているか	3	<ul style="list-style-type: none"> 日産5校全体で国家一級、二級の指導計画を共有し、指導計画進行中も継続して情報を共有して受験勉強を進める。また、一級、二級とも受験後には各日産校の担当間で振り返りが行われ合格率の向上を図っている。 自動車運転免許取得に関して、取得状況の管理を行っている。 	<p>23年度の国家一級資格筆記試験は全員合格。二級資格は一名の不合格者を出した。</p> <p>留学生の日本語対策が十分でなかった。特に時間がかかか学生を早期に見極め、国家試験対策の前倒しなど、対応を見直す必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> a. 国家資格取得計画 b. 23年度教育部活動計画 c. 整備科横断会議受験特訓計画 d. 工学科横断会議受験特訓計画

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
4-3 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	<p>企業アンケート(入社企業による卒業生の評価)、卒業生アンケートにて、卒業生全体の状況を把握している。</p> <p>アンケート結果より、特に実習授業に、また在学生在にFBできる項目、内容については担任からのアドバイス等で在学生の育成に反映している。</p>	<p>下記、企業アンケート、卒業生アンケート結果を次年度のカリキュラムに反映していく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 企業アンケート 接客系のポイントが低い事が課題。 今後、点検実習内のお客様対応部分の強化を図る。 卒業生アンケート 特になし 	<ul style="list-style-type: none"> a. 企業アンケート b. 卒業生アンケート

基準5 学生支援

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか。	4	<p>教員(教育部)と就職担当(学務部)が連携し、学生の支援は円滑に行われている。(求人情報の取得から、教員・学生への展開はスムーズであり。企業別・個人別の進捗状況は、リアルタイムで確認されている。)</p> <p>就職担当部署が、校内で企業ガイダンスの実施(6月頃)。企業情報の提供、企業訪問、会社説明会の展開も実施。</p> <p>クラス担任との学生個別面談(就職先企業選択など)・就職担当との個別面談(就職先企業の情報確認など)によるアドバイスを適宜行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現体制【教育部、学務部連携】を維持していく。 ・23年度から早い時期(夏休み等)に販売会社と接点を持たせるべく、在校生が多い栃木・福島・茨城等の近隣の日産販売社の協力を仰ぎ、就職対象者とのコミュニケーションを深めるイベントを複数回開催。 ・学生の整備士に対する理解を深めることができ、地元の販売会社の就職希望者が増えた。 	
5-2 退学率の低減が図られているか	3	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な退学防止策 担任を中心として学年担当全体で課題のある学生を早期に見出し、共有し、必要な対応を検討し、実施している。保護者との連携も欠かさない。 ・メンタル的な課題 メンタルの課題を抱える学生への対応として専門カウンセラーを学校に招き、半日の時間、学生へのカウンセリングを行なっている。実施は1回/月、平均して1回に3~4名の学生の面談を実施している。 ・23年度の休退学(含む除籍)率は4.1%、過去最低である。留学生の休退学、除籍が減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な退学防止策を実行する中で、発達障害、精神疾患の疑われる学生への対応が重要課題。 ・専門家による「学生対応力強化研修」を聴講し、教員のスキルアップを図り、対応していく。 ・研修後はスクールカウンセリングに繋げる件数が増えており、改善活動が活発化している。 	<ul style="list-style-type: none"> a.休退学(含む除籍)率 b.22年度教育部活動計画
5-3 学生相談に対する体制は整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> ・各正副クラス担任が、学校側からの定期・不定期の学生面談を行っている。また、学生の相談にも応じている。(教員に対しては研修を実施し、スキルアップの機会を設けている。) ・17年度より、学生相談窓口を開設し、いつでもメールでの相談を受けられる体制としている。 ・臨床心理士を校内カウンセラーとして定期(1回/月)に学校に招き、面談希望学生との面談を実施している。学校はその面談のフィードバックから、学校として行えるフォローを学生に行なっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、臨床心理士との面談を希望するメンタル等の問題を抱える学生が一定数おり、この学生への対応が課題。 ・発達障害、精神疾患の疑われる学生への対応としては、この臨床心理士への面談に当該学生をつなげることが必要であり、教員が、その為の考え方、手法を学べるよう、専門家による研修(学生指導力強化研修)を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生相談窓口 案内 ・校内カウンセラー 案内

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-4 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> •全体を対象として分納制度をFY16より実施。FY23の利用者は144名(48%)【日本人84名 1/3、留学生83名 ほぼ全員】となり、必要性の高まりを示している。 •コロナ禍で国から展開される緊急支援については、十分活用できるよう校内に展開、募集、支給を継続している。 •【日本人向け】 学生支援機構の奨学金貸与は120名(46%)、給付型として高等教育修学支援34名(13%)、リアライズ奨学金11名(4.6%)、留学生用のオリエンタルバイオが9名()。 •更に、販売会社の奨学金設定(学校も学費、寮費減免)も首都圏・関東・東北の日産販社は全社(49社)で導入され28名と急速に広がりつつある。 •【留学生向け】 現時点で、留学生に対しては、国際人材交流支援機構の給付が10人(7%)、学生支援機構からの給付が9名(4%)とまだまだ狭き門であり、貸与型も無い事から、引き続き、厳しい状況にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 【日本人】 募集活動の中で、販社奨学金の利用者を増やすことが課題であり、働き掛けを強化。 【留学生】 •経済的支援について販社に設定の働きかけを行っていく。 •新たな奨学金の提供(オリエンタルバイオ奨学金)があり、サポートの一部に組み入れていく。 	募集要項(奨学金/分納制度)

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-5 保護者との連携体制を構築しているか。	3	18年度から、成績通知表とは別に、成績面に加え、生活面についても記述した連絡表を保護者に送付している。突発的な報告、相談については主に担当が保護者に電話で行なっている。	生活面に問題のある学生の保護者にその旨記述した連絡表を送ることに保護者からは賛同の声が多い、しかしながら当の学生本人の改善を促すまでには至っていないケースもある。 電話対応の即時連絡を含め、保護者との連携をよりタイムリーに行うことを今後も継続する。	<ul style="list-style-type: none"> a.学生カルテ b.保護者連絡表 c.きずなネット(システム)

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
5-6 卒業生への支援体制を構築しているか。	3	企業の採用担当者から、随時、直近の卒業生の現況確認を行い、問題があれば、個別にサポートをしている。また、制度は存在しないが、離職してしまった卒業生から相談があれば、随時対応している。(就職先の相談など)	個別の問題に対し、現状の支援体制を継続していく。	

基準6 教育環境

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
6-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具を整備しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム対応/新車・新技術対応ができるよう情報を整理・更新している。また、教材車両については、日産自動車から試作車両を中心とした教材車両の提供を受けられる体制にある。 ・整備機器については、専門業者による定期的メンテナンス、教員による実習後の復元の体制で維持している。 ・授業のICT化に取り組んだ。学生個々にPCを持たせ、効果的かつ効率的な修得を目指し、各システムの活用方法を講じて、実行した。また、各視聴覚機器の充実も合わせて行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リチウムイオンバッテリーを搭載した車両の処分が進まない。日産自動車と協力して処理スキームの構築中 ・授業内容や各教員のスキルの差で、PCの稼働率が大きく変動することが課題。 教員対象のPC勉強会を実施し、授業内での使用頻度を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・設備投資計画表 ・学生使用端末(クロームブック) ・その他ICT化に必要な機器類
6-2 学外実習・インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4	<p>【全体概況】 コロナ禍の中、見学施設が限定されたが、今年度から本来の日産関連施設の見学機会が段階的に戻ってきた。 (座間記念庫、追浜工場見学他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際科-プリジストン、曙プレーキ、支局の見学を実施 ・1、3、4学年の国内研修を実施。 ・2年生-就職内定先企業研修を実施。 ・4年生-インターンシップ、各日産販売会社を中心に協力いただき全学生のインターンシップを各企業にて実施。 	特になし	<ul style="list-style-type: none"> a.インターンシップ計画表(工学科) b.1年生国内研修計画書 c.3年生国内研修計画書 d.4年生国内研修計画書
6-3 防災に対する組織体制はを整備し適切に運用しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・学園全体としてSaftyLinkを利用した地震災害時の連携の為の連絡網を整備し、1回/年の訓練も実施している。 ・自衛消防隊を組織し、毎年、学生・教職員の防災訓練を実施している。地震に備え、実習場の工具ロッカーを固定するなど安全対策を図ると同時に、保存水、非常食を防災倉庫に保有している。 ・校内、学生寮でも毎年防災訓練を実施している(FY20～22はコロナ禍で中止)FY23から再開。 ・交通安全講習会を校内で開催。 ・コロナ感染症対策として、対応マニュアル(感染予防、感染者発生時の対応)や抗原検査キットを整備し保有している。 	現時点では特にないが、災害環境は毎年変化しており、アンテナを高く体制を整備していく。	<ul style="list-style-type: none"> a.防火訓練計画・要領 b.防災組織表 c.23年度交通安全講習会資料 d.コロナ感染症対策マニュアル

基準7 学生の募集と受入れ

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-1 学生募集を適正、かつ効果的に行っているか。	3	R5年度は入学目標を160名に対し177名を達成。 日本人は地元・隣接県を中心に入学生を獲得できたが、全体としては減少している。 地域活動(高校訪問、ガイダンス)強化による知名度の向上や販社奨学金の浸透など、増員策の実感はあるが、それが反映されてくるのは、今後の募集の結果と考える。 留学生はコロナの影響で入国できない時期もあったが日本語学校からの卒業生も増え、在校生紹介が大きな支えとなり、予想以上に伸長した。 中長期的な視野から、日本語学校アティスインターナショナルと、留学生獲得に向けた提携を結んだが、まだ確固たる施策の確立には至っていない。	【方向性(FY24)】 日本人入学は隣接県中心に現状維持。コロナ禍で遠方からの入学生が減少したエリア(東北地方)は引き続きテコ入れ。留学生は在校生の紹介を中心に入学生の50%を目標として、囲い込む。 【方策】 ①日本人向け ・福島県以外の東北エリアはエリア長2名体制を維持 ・販売会社との連携(販社奨学金、同行訪問、現地ガイダンス、等)による応募者の誘引活動強化。 ・一級OCの実施等、一級課程の魅力のアピール強化で上級応募増を図る。 ②留学生向け ・25年4月卒の日本語学校の学生も引続き多く、活動の早期化が予想される。その中で日本語能力やヤル気等が高い留学生を獲得する。 ・アティスインターナショナルと、中期的な留学生誘引の施策を検討していく。	募集活動計画書
点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-2 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか。	4	日本人、留学生とも入学基準を明確にして、その都度判定会議にて合否を判定している。昨今、日本人、留学生とも様々な背景を持つ学生も受験しており、基準と見比べても合否判断は難しいところもあるが、できるだけ本人の強い入学意思があれば、合格として学ぶチャンスを与える方向で合否判断している。	今期は留学生向けに本語検定4級3級並みの学科試験を整備・実施して、より日本語力について公平な判断をしていく。	a.入試面接表 合否判定資料 b.指定校案内文書
点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
7-3 経費内容に対応し、学納金を策定しているか。	4	妥当と認識している。 (教育内容、物価変動、世間相場を考慮して改正をおこなっている。26/4月より、諸物価高騰の対応として学納金の値上げを実施する)	特になし	募集要項

基準8 財務

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
8-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	2	<ul style="list-style-type: none"> ・長期の投資を見込んだ中期計画(23～25年)を立てて中期的な財務安定を目標に運営しようとしている。 ・学生募集の漸減により、近年、収益は悪化傾向であり、募集の回復は喫緊の課題。 ・24年4月入学は160名の目標に対して、177名の入学となり、募集は挽回基調にある ・但し、24/4の入学生の半数は留学生であり、急増する留学生の需要頼りとなっている。 ・安定的留学生の確保を目指し、日本語学校(アティスインターナショナル)と提携したが、まだ具体的な施策を展開するに至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財政の柱となる募集活動については項目7-1にて概説 ・当面、学生数の増加は、留学生の伸長を背景に、可能と判断。これを計画的に達成し、財務基盤の安定に寄与する。その為に、国際科の入学定員を45名から90名に増やすことを柱とする新定員を25/4月より展開する。(入学定員も、175→200名に拡大) 	<ul style="list-style-type: none"> a.資金収支計算書 b.事業活動収支計算書 c.貸借対照表 e.FY24事業計画
8-2 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか。	3	<p>教育を円滑に進めていくため学校設備の更新を短中期で計画しているが、FY23からの中期計画での収支は学生数の落ち込みから厳しい状況が続くため、年々、教材の必要度を見極めて節約に努める必要がある。</p> <p>日産自動車からの環境整備の寄付も、間接的に教育環境整備に寄与するものになっている。</p>	<p>。日産自動車の寄付による環境整備も活かしつつ、募集挽回による資源を背景に、教育目標に必要な予算を確保、実行していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> a. 中期計画(2024～2026年) b. FY23活動実績 c. FY24活動計画
8-3 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を行っているか。	4	<p>適正に行われている。</p> <p>(公認会計士/監事が監査。5月の理事会評議員会で報告) FY17より経理内部監査を実施。また、FY22～内部監査と共に、日産自動車指導の監査を受け、組織の経費の運用/意思決定の妥当性を中心に適性をチェックし、不適切と指摘された内容は改善策を講じ、継続的に実行できている。</p>	<p>今後、更に広い領域で、学校運営の適正さを見ていく為に日産自動車とも協力して、監査制度の充実を日産校経営企画部を中心に検討していく。また、FY23是正されたものは、教職員に共有して継続を図っていく。</p>	<p>監査報告書 (内部監査 及びNML監査)</p>
8-4 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか。	4	<p>HPに公開(毎年7月に更新)</p> <p>公開内容～資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表・財産目録・監査報告書</p>	<p>特になし</p>	<p>財務情報 ※学校のHP情報公開にて確認方</p>

基準9 法令等の遵守

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な運営を行っているか。	4	<p>本校は、学校教育法、専修学校設置基準、一種養成施設認定規則、などの該当する法令には準拠しており、適正な運営が図られている(所轄の官庁の監査で確認)</p> <p>学生の法令順守という意味では、近年社会問題にもなっている車両の違法改造、道交法の順守について、また、未成年の飲酒、喫煙についても都度、注意喚起を行っている。</p> <p>ハラスメントについては、防止方針を設け、教職員・学生の双方に周知するとともに、定期的な学生アンケートの実施や、第三者的に申告を受ける窓口・それに対応する委員会制度を校内に設けるなど、発生の際に備えている。</p> <p>情報のセキュリティや、個人情報保護については、体系的な保護、教職員への周知の両面で徹底してきており、トラブルは発生していない。一方、学生に関しても、啓蒙活動を継続しており、SNSでの学生のトラブルは発生していない。</p> <p>FY23よりコロナの5類変更に伴い、コロナ対応もインフルエンザとほぼ同様な対応に変更した。</p>	各種法令順守や、ハラスメント防止、情報セキュリティの保護などは、啓蒙を継続し続けるものであり、その上で発生する問題へは、各種対処方針、又、契約弁護士の助言に基づき対応している。	国土交通省監査関係書類 イントラ「基準・ルール早わかり」 ※各種規程に運用条件が盛り込まれている

点検小項目	評価	ア 現状認識・評価等	ウ 課題とその解決方向	参考資料
9-2 職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っているか。	4	<p>一級自動車工学科、整備科ともに職業実践専門課程の認定要件を満たし、適正な教育運営を行っている。</p> <p>スポーツメカニクス科は授業内容の変更を必要に応じて適宜行うため24/4入学者から、3年課程を1年課程(整備科2年と分離)したため、職業実践課程の対象外となった。</p>	今後、スポーツメカニクスは、他課程の学生増に伴う実習エリア確保のため、26年度末を持って廃科とする。	職業実践専門課程申請関係書類 ※上記は、学校のHP情報公開にて確認方。

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-3 学校が保有する個人情報に関する対策を実施しているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> ・FY22より日産校コンプライアンス委員会のもと、校内に個人情報保護委員会と情報セキュリティ委員会の二つの委員会を設けた。その二つの委員会は校内のコンプライアンス委員会が司る。 ・上記委員会の活動では、ラベリングによるセキュリティ管理、PWの設定、情報の送受信の方法、保管期間等の管理についてなど、個人情報、機密情報の取扱いガイドラインに沿った情報セキュリティ管理を実施しているが、その浸透度は徐々に上がっているものの完全とは言えない。 ・年度末に上記取組の進捗を図るため、情報セキュリティ管理者の自己点検および職員全員のセキュリティ管理へのアンケート調査を実施したが、結果は、上記の実情を反映 ・学生に対してもSNSの危険性などの啓発活動を実施し、問題は発生していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報セキュリティ管理で、PWの設定、情報の送受信の方法、保管期間等の管理については進捗したものはまだ完全な状態ではない。引き続き個人情報保護委員会と情報セキュリティ委員会からの推進活動を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> a.個人情報管理方針(HP) b.人事規定(機密保持) c.個人/機密情報セキュリティガイドライン d.学生個人情報の取扱いに関する同意書

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-4 自己点検評価、学校関係者評価を適切に行っているか。	4	学校の自己点検は2013年度から、学校関係者評価は2014年から実施している。 6月末までに、自己点検、学校関係者評価を実施するルーティンを組んでいる。	特になし	自己点検評価結果 学校関係者評価結果 ※上記内容は学校のHP情報公開で確認方。

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
9-5 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか。	4	教育情報についても学則・カリキュラム・シラバス・資格取得実績・就職率等、2014年度以降、HPにて公開している。	特になし	学則・カリキュラム・シラバス等 ※上記内容は学校のHP情報公開で確認方。

基準10 社会貢献・地域貢献

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
10-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3	<p>以下の様な各種貢献を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①中学：職業教育への支援活動(学校見学、職業体験才気としての日産販社の紹介)、模擬授業 ②高校：全国自動車整備研究会に所属する高校教員へ先進技術講座の実施 ③関係団体：自動車整備士国家試験、英語検定試験、への会場提供。 ④地域：交通安全リーダーへの参加 ⑤その他：日本語学校の留学生の日産栃木工場見学のアレンジ 	<p>24年度は整備振興会技術大会への会場貸し出しを行う。また、例年通り英語検定試験に会場貸し出しを行う。今期より足利大付属高校自動車科へ職員を講師として年間を通して派遣する。 同じ学区内の本郷中学の運営協議委員会の委員を校長が担い、地元中学との教育連携を進める。</p>	

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
10-2-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか。	3	23年度はコロナの5類変更に伴い、学生の活動を広げられた。社会貢献活動の一つとして八丈島にて島民の自家用車の無料点検を他の日産校とも協力して実施。島民からは大変喜ばれ、多くのメディアにも取り上げられた。	八丈島の活動は今期も2回開催予定。 また、それ以外のボランティア活動も機会があれば学生に積極的に展開していく。	

基準11 国際交流【必要に応じて】

点検小項目	評価	現状認識・評価等	課題とその解決方向	参考資料・エビデンス
11-1 国際交流活動を行っているか。	3	<ul style="list-style-type: none"> この数年、海外からの留学生の増により、校内で一定の比率を有する状況にある。日常的な日本人との交流と共に、留学生間の異文化交流を図るイベントとして、国際科1年に学校外での学びの機会を多く作った。(ANA整備工場見学、もてぎサーキットでのS耐観戦など) また、学内での整備技術大会では留学生が母国の料理を調理して日本人学生に振舞うなど、異文化交流ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> 栃木校は国際科の留学生は2年生以降、日本人学生と同じクラスになり、その時点で留学生と日本人との交流が進むのが利点。今後、日本も外国人労働者が増えてくるので、日本人、留学生双方に学生時代から交流ができるのは社会に出たからのアドバンテージになる。今後も更なる日本人と留学生の混合クラスを継続していきたい。 	

